

年度末にあたって学生の皆さんへ

2021. 2. 15 学長 谷岡郁子

大変だった一年がもうすぐ終わります。

入学式や全学オリエンテーションもできずに大学休業状態で始まった春。

先の見えない混乱の中での遠隔授業、慣れない予防対策を講じながらの対面授業や部活をはじめとする課外活動。大学祭や短期留学ツアーは中止に。やっと様々なことに慣れたと思ったら、年明けからはまた、緊急事態宣言下のリモート授業に逆もどりになりました。

学生の皆さんは、たくさんの我慢、たくさんの忍耐と不安を抱えながらの努力、努力の一年だったと思います。よく、辛さに耐えてくれました。

この皆さんの努力と協力に心からの感謝を伝えたくて、このメッセージを書いています。

「ありがとう、みんな！ほんとに、ほんとにありがとう。」

私たち教職員も急に休業やテレワークを求められ、準備もできておらず、必要なネット用機器、消毒用アルコールやマスクも入手できない環境で大幅な予定変更に取り組み、遠隔授業の準備を急いで必死にやりました。でも、時間も必要な物や十分な人員も圧倒的に不足していましたから、結果として君たち学生にそのしわ寄せが行くことになりました。たくさんの苦勞をさせたのに、前向きに頑張ってくれました。

この苦勞に対しては、ごめんなさい。そして前向きの頑張りに拍手！

たくさんの課題レポートを書くのは苦勞だったと思いますが、君たちの文章力は格段にあがっています。4年生はもちろんのこと、授業でのレポートや試験を見ても1年生のかつてない文章力や内容の充実ぶりです。コロナ感染に関することはもちろん、政治や社会の問題への関心や理解が高まっていることもうかがえます。最初は機器の操作もたいへんだったかもしれないけれど、オンディマンドやオンラインで授業を受けて学んだことはこれからの生活でも便利に使えます。決してムダな努力や苦勞ではなかったのです。むしろ大きく成長したと思います。自粛中の生活で時間の使い方や家事、トレーニング等自己管理が上達した学生も多くいます。新たに日記をつけ始めた、本をよく読むようになったという声も聞きます。また、自分を見つめることに目覚めた人も。どれも素敵なことです。

また、コロナ・ウィルス感染への対応に関しても、たくさんの協力をしてもらいました。手をしょっちゅう洗っていた結果、ハンドクリームを持ち歩いている人も多いのではないかしら？時々密になってのお喋りを見かけることはあります。マスクが顎を守っているケースもあるかな？でも、PCR 検査への協力や仲間への配慮を含め、至学館の学生たちはこの

面でも優秀だと思います。防ぎきれない環境での感染者は何人か出たけれども、こんなに活動的な学生たちがいても、学内クラスターはゼロ。これは皆で努力しないと達成できない成果です。感染者はすばやく大学に連絡、相談をしてくれて、その結果私たちも迅速に対応することが可能になりました。感染者に対する差別も起きていないと思います。これは、今の日本のコミュニティや組織としては、珍しく、とても素敵なことだと思います。君たちを心から誇りに思います。

私自身も学長として、いっぱい悩みに悩んだ一年でしたが、こうやって君たちの成長を確認することができて幸せです。大学として改善すべきところも多数見つかったので、これからひとつひとつ頑張っていきます。

来年度は、君たち一人ひとりにとって、もっと充実した年になりますように。